



服部元喬書簡写  
新井澗洲宛

服部文庫  
イ 17  
2039





117  
2039



一 此書の初巻と云ふは、（一） 漢書付方下古の字大略

五山よりば、（二） 海文詩は、（三） 五山と云ふは、

智徳を世にあらせし、（四） 師ありては、（五） 福永住（六） 此

徳を世にあらせし、（七） 師ありては、（八） 福永住（九） 此

徳を世にあらせし、（十） 師ありては、（十一） 福永住（十二） 此

徳を世にあらせし、（十三） 師ありては、（十四） 福永住（十五） 此

徳を世にあらせし、（十六） 師ありては、（十七） 福永住（十八） 此

徳を世にあらせし、（十九） 師ありては、（二十） 福永住（二十一） 此

徳を世にあらせし、（二十二） 師ありては、（二十三） 福永住（二十四） 此

徳を世にあらせし、（二十五） 師ありては、（二十六） 福永住（二十七） 此

徳を世にあらせし、（二十八） 師ありては、（二十九） 福永住（三十） 此



智の誤なき一書註の作、歐陽永叔内制集より  
阿ふて尺之より一書註祝聖の儀と云ふる  
中舞として作家と書くは入る戸物とて一  
つと別名也

一和歌は元白より都の歌りたりし所  
御答は古きことと和の宋人より取  
りて後古歌と云ふ事あるなり  
吾邦中古五山よりとりて云々  
云々と和の歌り稀と云ふ事あり  
之れは和の歌り稀と云ふ事あり  
云々

一七三歌は唐人よりとりて和歌  
是より歌ありて和の歌り稀と云ふ事あり  
唐人を以て和の歌り稀と云ふ事あり  
梁の宋初也と云ふ事ありて和の歌り稀と云ふ事あり  
作りて和の歌り稀と云ふ事ありて和の歌り稀と云ふ事あり  
今之和の歌り稀と云ふ事ありて和の歌り稀と云ふ事あり  
の下に和の歌り稀と云ふ事ありて和の歌り稀と云ふ事あり  
人に和の歌り稀と云ふ事ありて和の歌り稀と云ふ事あり  
是又和の歌り稀と云ふ事ありて和の歌り稀と云ふ事あり  
府乃和の歌り稀と云ふ事ありて和の歌り稀と云ふ事あり

魏書



ようやくあれがわかって、その中の熟なものをば、  
 宛れは概して「あつた」といふ、  
 作の終つては、  
 はあつた、  
 一書讀のするに、  
 幾も同物の、  
 意中の双鱼とは、  
 文章規範の、  
 とつて、  
 あつた、  
 一批評、  
 然り、

一 漢中文字、  
 多く、  
 大略、  
 一 書讀の、  
 考人、  
 通、  
 中、  
 一 書讀の、  
 考人、  
 通、  
 中、

考人、  
 通、  
 中、  
 一 書讀の、  
 考人、  
 通、  
 中、



振中流舟一あてらるる大これ又風波の後又腰  
とはかりのまればまゝ踏込船又けりうの時  
大暗を腰に帯てとてけけおの字書はるの序引字  
又腰のりて書信筒おてぬはまゝあふり  
あゝあゝあゝの字とあゝあゝ  
おつ手つらりて大暗黒足のは答も及ひぬ多  
まらぬは者申かていつしおすつてまゝ業は自力  
と申するもまゝぬは熟字のり月おてて一丸  
もたはせとていつつて出りぬてぬる是

高木

之書

浪洲原秀寸是

右の書は浪洲原秀寸の書なり

子みぬまゝ

高木

おんはらりとは早守を中にも書る所も  
深は事あつるは昔昔はたまたま三つ以て何  
共お事重なるも一入は事重なるも一入は事  
つらき事重なるも一入は事重なるも一入は事  
何れも重なるも一入は事重なるも一入は事  
再抱誰斗も重なるも一入は事重なるも一入は事  
甘のりて重なるも一入は事重なるも一入は事

右の書は浪洲原秀寸の書なり  
右の書は浪洲原秀寸の書なり  
右の書は浪洲原秀寸の書なり  
右の書は浪洲原秀寸の書なり



後任之向洞義翁の事は  
賜意を被里と云ふ事  
高僧の住持と云ふ事  
中世の事は  
伊達洋臣

伊達洋臣

新井の守

伊達洋臣

伊達洋臣

依之居の地  
高僧の住持  
伊達洋臣

大正二女両家より  
伊達洋臣







